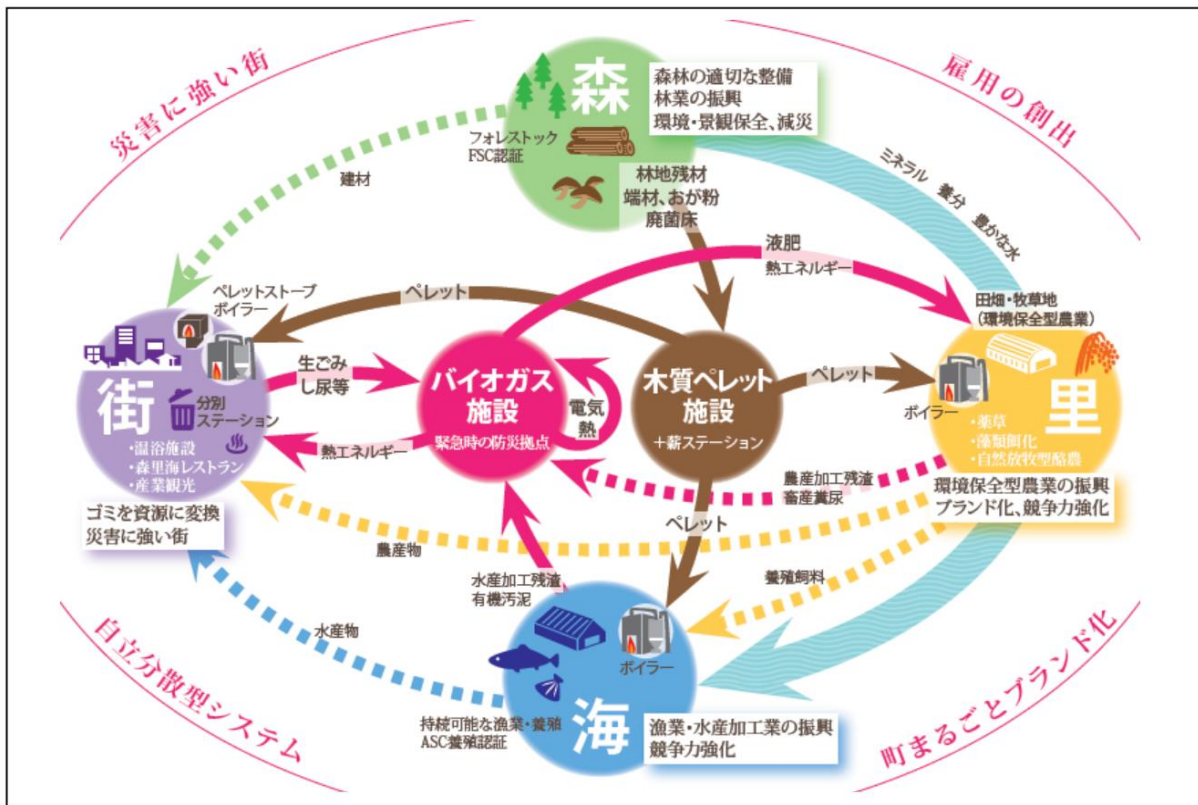


宮城県南三陸町

住所	〒986-0725 宮城県本吉郡南三陸町志津川字沼田101
町長	佐藤 仁
HP	https://www.town.minamisanriku.miyagi.jp/
バイオマス産業都市選定年度	2013年度
バイオマス産業都市構想	https://www.town.minamisanriku.miyagi.jp/index.cfm/8,6273,c,html/6273/20141105-143604.pdf
担当部署	企画課
連絡先 TEL	0226-46-1371
連絡先 FAX	0226-46-5348



事業化プロジェクトの概要

名称	南三陸町バイオマス産業都市構想に基づくバイオマス事業	
実施主体	アマタ株式会社	
使用する技術	バイオガス施設（メタン発酵）…湿式中温メタン発酵	
実施体制	プラントメーカー	三井造船環境エンジニアリング株式会社
	設計・施工業者	三井造船環境エンジニアリング株式会社
概要 (計画)	バイオマス原料	南三陸町で発生する「生ゴミ」 南三陸町衛生センターから発生する「余剰汚泥」
	原料処理量(t/年)	生ゴミ：1,602t/年 余剰汚泥：3,560t/年
	原料投入量(t/年)	生ゴミ：1,602t/年 余剰汚泥：3,560t/年
	生産物	バイオガス、南三陸液肥
	発電の場合は発電量(kwh/年)	219,000kwh/年
	FITの適用	<input type="checkbox"/> FIT適用 <input checked="" type="checkbox"/> FIT対象外
	堆肥化の場合は製造量	なし
	副産物（液肥等）生産量	液肥：4,300t/年、



事業の経営状況

事業化プロジェクト	計画との進捗比較※	事業実施による効果（地域波及効果の発現状況）	
		効果	数値化
南三陸町バイオマス産業都市構想に基づくバイオマス事業	B ほぼ計画通り	<p>令和元年に実施した常設バケツの検証を令和2年9月より実証を開始。開始当日には南三陸町協力のもと、町内放送を行い、住民へ常設バケツ設置に伴う生ごみ分別の参加を促すことができた。生ごみ原料調達量については、以前まで実施していた「集荷前日での生ごみバケツ設置」に比べ、常設では「いつでも生ごみを出せる」という利便性が功を奏し、設置以降、10t/月程度の増量を実現させた。令和3年2月現在でもコロナの影響がある中で数量を保つことができている。</p> <p>南三陸町30ヶ所の設置している住民対象の無償液肥タンク利用率も令和元年度の28tに比べ令和2年度は38.5tと増量する事ができた。これらの普及活動を通じて、液肥利用先を増やしていく必要がある。</p>	<p>バケツ常設後、生ゴミ受け入れ量が月平均+10t/月増加</p> <p>液肥利用料も前年度比較で10.5t/年の増加</p>

a)計画以上に進捗している b)ほぼ計画通り c)計画より遅れている d)進んでいない

成功要因

事業化プロジェクト	成功要因
南三陸町バイオマス産業都市構想に基づくバイオマス事業	<p>「バイオガス施設の建設にあたり、大規模で効率重視の設計ではなく、人口減少が進む社会でも運用していけるコンパクトで外部環境の変化に強い設計とした。</p> <p>前処理（分別）施設と後処理（排水処理）施設をなくし、住民自身が家庭でごみを分別することと、消化液を液体肥料として地元農家が利用することで、事業としての持続性が上がり、効果的な運用を実現できている。」</p>

地域レジリエンス対応としての取組・計画

<p>見学案内（2015年から2020年までは3,362名）、液肥利用者協議会（農業部会）の実施、液肥利用者協議会（家庭部会）、かもめの虹色会議参加（町づくり任意団体）、いのちめぐるまち推進協議会への参加、三者ミーティング（南三陸町環境対策課、アマタ、運搬会社）の運営、バイオマス産業都市構想評価委員への参加、集積場掲示板を利用した啓蒙活動、事業者（事業系廃棄物発生元）への定期訪問、「常設バケツ設置の実証」、「住民アンケート結果報告及び分別チラシの配布」、「防災無線を活用した啓もう活動」、「南三陸町ホームページの更新」、「循環紙芝居等の広報活動（保育園、小学校、高校）等。</p>
--